

# 学校関係者評価委員会

(第11回)

■日時：令和6年9月27日(水) 17:00～18:00

■場所：龍馬デザイン・ビューティ専門学校 ラウンジ

## 【評価委員】

山本 晋爾さま	高橋 和之さま
山下 智徳さま	國澤 裕貴さま

## 【学校参加委員】

中西校長	大久保副校長
【進行】岩神教務部長	石元課長
筒井課長	久川課長
桑名主任	【議事録】安岡

## ～ 討議・意見交換 ～

【高橋】全体的に「自己点検評価」が下がっているが誰が評価者を設けたのか。

【岩神】評価者を設けたわけではないが、前回いただいた意見などを参考に今回は厳しめに評価をして数値を下げた。

【中西】何をもってして「完璧」なのか。評価項目の「完璧」という言葉に疑問が残るためそういう経緯もある。

【山下】すべての項目においてすべて「5」は一切なしにて「4」まででよくないか。  
この評価基準は難しく具体的に何回やれば「5」になるかというものはない。

【中西】「完璧」となると次はないということになる。そのため厳しめの評価にしている。決して業務を怠った結果がこの数値になっているわけではない。

【岩神】全専研の評価を元に行っているので、文言を変更しても良いかもしれない。

【山下】学内のコンペでは企業から副賞がでたりするのか。

【桑名】採用された子に現金が出る時もあれば、商品券のときもある。

【山下】いくら賞金が出るのか。

【桑名】企業によってマチマチ。「3000円しか出せません」という時もある。  
あまりにも条件が悪い時はお断りする場合もある。

【山下】例えばキャッチコピーやロゴデザインを依頼したら取り組んでもらえるのか。

【桑名】可能であるがクライアントさんからの評価もしてもらうことが大事。  
教員以外からの評価をもらうことが学生のスキルアップに繋がる。

【高橋】問題なのは「安く済むから学生に頼もう」というのはちょっと違う。  
学生だから安くみられるのはよくない。

【桑名】過去一番額が高かったのは 15 万。こちらがその金額を言うと連絡が途絶える場合もある。なお、廣瀬製紙さんでは 30 万までの金額を出してもらえることになった。

【高橋】それが本来の形だと思う。学校が料金表を決めた方がよい。  
自分はクライアントの規模によって料金を変えている。  
ロゴにしても日本語なのか、アルファベットなのかで提示料金を変えている。  
クライアントは安い料金を提示しがちである。

【山下】金額を下げることによって自分で自分の扉を閉めている。  
もっと自身のスキルに価値があるところをアピールすべき。

【高橋】実績だけをつまませたければ、条件がいい案件を受ければいい。  
近年では建築分野で函面だけ請け負って、ほかは外注という会社も増えている。  
この形態に変えても売り上げはスタッフが 10 人居たときと変わらないと聞いた。

【山下】細分化して仕事を割り振ると学生も色々な実績が積める。

【高橋】AI が台頭しており、AI 以上の価値を見出さないといけなくなっている。  
対人が教えることには限界があるが AI は学習していく。  
そのため AI を導入した方がいいのではないか。

【中西】美容の世界では AI 分野の活用は何かあるのか。

【山本】AI はカウンセリングなどを活用している。  
ホットペッパーなどに載せるものなども AI を活用している。

【山本】前から気になっていたのは、県内に残る学生が少ない点。高知に残る学生がいないので高知に定着する美容業界は少ないと思う。高知の美容業界+教育機関で美容を盛り上げようという取り組みをしていかないといけないと思う。もちろん学校だけではなく企業努力は必要。高知に県外に負けないサロンを作ることが必要と感じる。せめて半分くらいの人財残るような取り組みができればいいなと感じている。

【久川】ここ最近は多少、県内志望の学生が増えた。美容組合で県内の企業さんをお呼びしてもらえたら嬉しい。学生が少ないので例えば高知理容美容専門学校と一緒に人数も増えるといいのではないかな。こちらとしても高知のサロンを盛り上げたい気持ちでいる。

終了